

## 平成28年度南部地域政策総合会議計画推進評価部会 会議録 概要

### 1 開催日時

平成28年7月15日（金）午後2時から午後3時45分

### 2 会場

徳島県南部総合県民局 阿南庁舎 大会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員 7名出席（1名欠席）

委員 小林委員（副部会長） 橋本委員 濱崎委員

町田委員

専門委員 石田部会長 瀬川委員 森本委員

#### (2) 県関係

小泉局長 新居副局長 神野津波減災部長 塩見経営企画部長

桑村保健福祉環境部長 村上産業交流部長 新居県土整備部長

谷口政策調査幹 他

#### (3) 市町関係

阿南市：松内企画政策課長

那賀町：武田総務課課長補佐 牟岐町：宮内総務課長

美波町：磯野総務企画課長 海陽町：戎谷まち・みらい課長

### 4 会議次第

#### (1) 開会

#### (2) 議事

平成27年度南部圏域課題解決プラン実施結果の評価について

#### (3) 閉会

### 5 配付資料

- ・ 徳島県南部地域政策総合会議計画推進評価部会設置要綱
- ・ 徳島県南部地域政策総合会議計画推進評価部会委員名簿
- ・ 平成28年度徳島県南部地域政策総合会議計画推進評価部会配席図
- ・ 資料 1 平成27年度南部圏域課題解決プラン実施結果及び評価の概要（案）
- ・ 資料 2 平成27年度南部圏域課題解決プラン実施結果及び評価（案）
- ・ 資料 3 南部圏域課題解決プラン（平成28年3月）

### < 発言概要 >

（事務局）

本日は委員8名のうち7名にご出席いただいております。当評価部会設置要領第5条第2号の規程によりまして、部会に属する委員の総数の半数以上の出席がありましたので会議は成立とさせていただきます。

(局長)

(あいさつ)

(事務局)

議事につきましては、徳島県南部地域政策総合会議設置要領第5条第1号に基づきまして、部会長に進行していただくこととしておりますので、よろしく願いいたします。

(部会長)

それでは、議事を進行して参ります。本日の議題の平成27年度南部圏域課題解決プラン実施結果及び評価(案)につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

(政策調査幹)

(資料1により説明)

(部会長)

それでは、ただいま説明のありました平成27年度南部圏域課題解決プラン実施結果及び評価(案)についての御意見、御質問、さらには南部圏域振興計画への御提言も含めまして、幅広い御意見等をいただければと思います。どなたからでも結構ですので、よろしく願いいたします。

(A委員)

資料いただいて思ったことは、Aがこんなにあっていいものだろうか。思い出すのに苦労したりしたんですが、27年度の評価っていうことをしっかり頭に入れてやっていきたいと思っています。自分が感じたことを言わせていただきます。

プラン2、風水害に対するハード対策の推進。移住者の方とか那賀町の方にききますと、27年度なんか災害があって那賀町も浸かったはずなのに、これって果たしていけてるのかなっていうのがあります。

それからプラン6のきゅうり農家さんとかブランド戦略とか色々あるんですが、これも移住者との関係になってくるんですけども、職業とか紹介できたりするはずなのに、全然これがマッチングできてないな、というのがあります。

次にプラン12ですね。体験型観光となっておりますが、これも、Aかな、というのがあります。1万人と書かれているのに、2,403人でAなのかと。

それから特に、Cのプラン15、16。情報発信に関して、これは県の取り組みとしてはすごく難しいなっていうところがあって、いくら発信しようと思っても、各町さんの熱が足りないなっていう感じがします。各町1つ1つが発信するっていうのはいいんですけども、それをまとめて県民局がするってなったときに、各町さんにもっと情報を出していただかないと、なかなか発信するのが難しい。移住のアドバイザーやらせていただいているんですけども、27年度において、こんなに移住者数が増えてると思わないし、美波町は申し訳ないですがダントツなんですけれども、若者達はその年ほど

んといらっしゃるんですが、プラン24のところ定住って書かれてる。果たして定住がいてるのかと。入ってばかりの、行政特有の累計なんですけど、積み上げるばかりじゃなく、おそらくこだけ人数残っているわけではないので、本当に定住って文言からいくとこれはちょっと無理なんじゃないかなと思っています。それと、移住者数の数をもっとどんと出していただきたいなど。各町全体から数字あがってきてると思うんですよね、何年までに何人入れたいかというの。それをもっともっとはっきり、まとめた数を上げていていただいた方がいいんじゃないかと思います。特に27年度に関しては、こんなに移住者来てるって思っていないんです。とにかく、電話も少ないし、来たいっていう方もすごい少ないんで、徳島県全体でもすごい少ないので、なんとかしなきゃいけないなど。ここら辺はもうAとせずに、できたらもうちょっと下げたいかなと思います。

ちょっと戻りますが、プラン19の千年サンゴなんですけど、去年度から千年サンゴが見れなくなるっていうのはわかってたのでしょうか。今後どうされるのか、お尋ねしたい。

(県土整備部長)

和食・土佐地区の対策でございますが、平成27年度に床上浸水対策特別緊急事業ということで、これは5ヶ年で完成させるという非常にスピード感のある事業でございますが、27年度に採択されたところでございますので、31年度に完成予定となっております。現時点では何も見えていないというところがございます。完成しないと形が見えてこないというところですが、総合県民局の那賀庁舎が頑張っていてやっておりまして、まずは用地からということで、交渉に入ったところでございます。今年度内に、渇水期を視野に、一部でも堤防の工事に着手したいと頑張っているところでございます。31年までの5ヶ年と期限が区切られておりますので、確かに形が見えないと御心配いただくところではあります。頑張っていていきたいと思っております。

(保健福祉環境部長)

千年サンゴに関して、少し説明させていただきます。千年サンゴは、御承知のとおり、牟岐大島湾内にある、高さ約9メートル周囲約30メートルの世界最大級のコブハマサンゴでございます。平成20年度から地元NPOやダイバーによる保全活動が行われており、平成27年度においては、保全活動・環境調査合わせまして年4回実施し、日本ユネスコ協会のプロジェクト未来遺産にも登録されました。千年さんごちゃんというキャラクターの作成やHPでの情報発信も行っております。

しかし千年サンゴの保全活動に携わってくださっていたノアむぎ2000が、今年の7月からダイビング事業を休止しているということで、なかなか厳しい状況です。民間企業でございますので、われわれとしては状況を注視していこうと思っています。保全活動については28年度も引き続き協力していただけることになっておりますが、29年度以降は、ノアむぎに代わるころや、漁協との関係もありますので、難しい問題ではあります。保全活動が十分続けられるようにしていければと思っています。

(経営企画部長)

まず、情報発信について、A委員さんにお世話になっている移住ナビが大変好評で、きめ細やかな更新をしていただいております。そうした中でもっともっとコンテンツを充実させていく必要があるということで、市町と一緒にになって取り組んでいきたいと考えております。それから2点目としまして、移住から定住に繋げなければならないと、そういうような御意見をいただきました。これはおっしゃる通りでございまして、人口減少率が特にこの県南においては高いということで、市町と一緒にやっていく一番の課題だと認識しております。そういうことで、昨年度から住民票届出のときにアンケートをとって調査しているところとございまして、お仕事とか進学で来た人は除くという形で転入者の数字を把握しています。そのはじめての数字がこの215ということになっております。この辺り、今後の推移も十分みながら、一体となってやっていかないかと思っております。関連事業といたしまして、サテライトオフィスの誘致ということで県外企業を呼び込んできたり、キャンパス事業ということで、県と各市町が一緒になって大学生のフィールドワークをしたり、すぐ移住・定住には結び付かないかも知れないんですけども、またインターンシップ事業といたしまして、県内外の学生さんと社会人に県南の企業に来ていただいております。今日明日人数が増えるというわけにはいかんのですが、中長期的にみて今後しっかり重点的に取り組んでいきたいと考えております。

(産業交流部長)

6番目のプランでございまして、きゅうりタウン構想につきましては、懸命に推進をしているところでございまして、7戸をまずは達成したところでございまして、とくしま特選ブランドにつきましては、1個しか増えていないということなんですけど、実は28年の6月に、年度をまたぐ形で認定されておりました。今回は27年度についての状況でありますけれども、全体としては順調にしているのではないかとということで、全体評価としてAとさせていただきます。プラン15についてはCの評価をさせていただきます。市町と連携、これは一番重要であります。まずは魅力あるページづくりをしていく、そしてそのためには市町の方々からたくさん情報をいただくと。作成チームというものを作って、情報発信に取り組んでいきまして、最終8万ユーザーを目指していきたいと考えております。

(局長)

補足してよろしいですか。まず2番目のハード整備のところですが、先ほど部長の方からも話がありましたように、なかなか目に見える形ではできていませんけれども、27年度に事業着手をして、31年度に完成という計画でありまして、27年度は事業着手ができて、説明会も開いて、地元の方々には説明をさせていただきます。その後用地交渉に着手しており、一応スケジュール通り進んでいるということでAにしています。

それから24番の定住の話なんですけど、これは25年に26人だったのが、いきなり215人に増えております。これは移住者のカウントの仕方が変わっていて、25年度というのは移住相談窓口で相談があって、それが移

住につながった人の数を拾っているんですけど、実際にはそういう窓口を通さずに移住された方っていうのがいるわけなんです。そういう人も含めるべきだということで、27年度に全県的に拾い方を統一いたしまして、先ほど説明がありましたように、転入届を出した人に対してアンケートを書いてもらって、そのアンケートの結果で仕事による転入とか、進学による転入とかそういうのがメインでの転入でない人を移住者として捉まえるということで、カウントの仕方を見直しさせていただきました。確かにそういう方が地域にちゃんと定住しておるかどうかの方が大事とおっしゃいましたけど、まさにその通りで、そういう方のフォローもしていきます。

(産業交流部長)

プラン12については、指標が4ヶ年累計ということになっておりまして、30年度に1万人ということを考えますとまあ、よく頑張った方かなと思いますので、その辺りご理解いただけたらと思います。

(D委員)

AさんがAばかりでこの会議の必要性がないとおっしゃいましたように、Aの基準を見直した方がいいような箇所があるようにも思いましたが、プラン2のところ、深瀬地区工事完成していただいてありがとうございました。今度加茂地区も説明会をして、非常に水害に対して取組みをしていただいて大変有難く思っております。31年度に完成と明確に完成まで、出来上がりの画みみたいなものを、地域住民には見せていただいて、わかりやすいです。今この工事、A評価とは関係ないんですけども、工事がはじまっているのかわかりませんが、トラックが山手線みたいに速く今すぐ通ってます。恐ろしいぐらい。軽トラの人が30kmぐらいで走る人がいっぱい居る中で、道を渡るにもトラックが来るとか、そんなにこの大きい車が走るとこに住み慣れてないので、軽トラも道端に置くので、脇道から出るのに危ない、ヒヤってするような状態が続いているっていうのをここで言っても仕方ないんですけど、今日は警察の方来てくださってないので。こういう工事を進める上で、裏の面も考えながらやっていただくとありがたいです。うちの前本当に山手線ぐらい、すっごいスピードで走ってるんです。でも、県とか国の方が、こういうのができますっていう写真みたいなのをみんなの家に届いているので、我慢ができとんです。見えた状態が、周知が完璧にできてて。素晴らしいと思います。それと、私8の字の道フォーラムの委員で、12月に東京で、女性フォーラムに参加させていただいて、道をつけてくださいと全国の女性から勉強する会が年に一度あるんですけど、小松島のところにも橋桁ができとったり、今にもつきそうな気配がみえるんですけど、大体いつできるんえって、言いながら工事で渋滞になったりとかできるのを期待しつつも、交通渋滞とか色々あったらイライラがあったりするんで、土手ができるみたいに、高速道路もいつできるっていうPRを大きくこう掲げたら非常にいいのではないかと思います。それと、上から2番目の深瀬の土手が作っていただいて、今年の夏の台風のときにそれがどうなるか。予想ではもう水は絶対来ないってなってますけど、31年度に加茂に堤防ができたら今度この31年度のときに上流の吉井とか、うちの家の前とか古いしどうなるのか

というような不安もあるので、27年度から30年度までの目標はあるんですが、それと同時にその向こうの、水害に関しては、30年度以降も考えながら進めて欲しいなと思います。

それと、15番、16番、Cのところなんですけど、これをお預かりしたときに話をしながら、川口ダムに自然エネルギーミュージアムができるってきいて、すぐCさんに話をしました。日和佐の道の駅を中心に、県さんは色々なサテライトステーションとか考えておられますけど、驚敷にも道の駅がありますので、驚敷の道の駅と日和佐の道の駅を同じぐらい重点に置くと、もっともっと魅力ある形になるように思いました。それとさっき言ったように高速道路がいつできるっていうように明確に看板なんかをあげると、非常に皆が安心できると思いました。

そして次24番で、移住・定住っていう話がありまして、サテライトオフィスっていうことで、うちの近所にサテライトのオフィスが町内会に来てくれてますし、農業でも何人か来てくれているんですが、農業の人は消防団に入ったり婦人会に入ったり、地元の人と同じように結構交流ができとんですが、サテライトオフィスさんの人はなかなか、というのが実際のところで、農業の人は夫婦だけだったりとか少人数で来るんですけど、サテライトオフィスの人は割と団体で来ていて、移住じゃなく定住にするにはこのサテライトオフィスさんが来てからの関わり方を考えんとあかんのではないかと思いました。知事がこの間全国のテレビのニュースに出てましたけど、もっともっとこれだけ県南は施設ができてるので、PRをしていかなあかんと思いました。

(E委員)

3つぐらいあるんですが、6番のきゅうりタウンの年収1千万円の戸数で、7戸もあるんだというのにびっくりしたのと、30年の20戸というので、余りにできすぎたら値崩れせんのかなという心配があると、あと昨日テレビ出たので、静岡県でむちゃくちゃ柔らかいイチゴがあって、県内しか出荷できないっていうので、品種改良して。きゅうりってあんまり栄養ないんですよ。

(B委員)

そうですね、ほとんど水です。

(E委員)

品種改良するにしても何かネタがいるのかなと。きゅうりの漬け物みたいな加工品も考えられるのかなと。そのときにはかませて欲しいなと思います。

24番の定住のところ、先ほど進学と就業っていうのがありましたが、最近周りに介護で帰ってきている人もいます。

それと26番目、認定こども園の設置数とか、放課後児童クラブの設置数とか、右肩上がりだけでなくもええん違うかなと。増やしていく必要があるのか、実状に合っているのか。

19番の「海からのめぐみ」を活用したまちづくり参加者数のところで、去年いっぺんやったんですけど、今年どうされるのかなと。

あとおききたいんですけど、7番の水産関係の6次産業化取組件数について4件実績ありますが、どんな内容なのか、教えて頂けたら。

(県土整備部長)

加茂地区については、和食・土佐と同様、平成27年度に床上浸水対策の特別緊急事業が採択されまして、6月末で用地の9割ほどが取得できております。9月4日の日曜日に起工式が予定されておりますので、近く案内があると思われまして。

それから2点目なんですけど、高速道路はご存じのように、2つの方式でやっております。徳島ジャンクションから徳島東インターまでの区間はNEXCO西日本、徳島東から阿南までの間は国の直轄方式でやっております。NEXCO西日本の方は完成予定が平成31年までということで明示されておるんですけど、国の方はなかなか明示していただけないということで、県としましては事ある毎に平成31年度に合わせて欲しいということでお伝えしております。またこういった御意見があるということ、国にお伝えします。

3点目は、吉井地区の堤防の漏水の話だと思っております。実は那賀川水系の河川整備計画なんですけど、新しい整備計画がこの前11日に公表されまして、翌7月12日から1ヶ月間、ここ県民局とサービスセンターでも縦覧できます。その中でですね、吉井地区につきましては堤防の浸透対策が必要な区間として位置付けられております。今後、変更された計画を元に、整備されていくと思われまして。

最後に道の駅についてです。道の駅わじきについては、比較の話でいいですと道の駅日和佐と比べたらあれなんですけど、土日祝日なんかは賑わっておりますので、今後活用については考えていきたいと思っております。

(経営企画部長)

D委員から移住・定住について24番のところで御意見をいただきました。おっしゃるとおり、サテライトオフィスもずっとそこにいる、住んでいる滞在型のところと、そうではなく、加茂地区のサテライトオフィスのように何日か来て仕事をするという形の循環型のところがございます。地域の色々な行事等に参加して溶け込んでいくことが課題であることはおっしゃる通りなんですけど、まずは循環型でもいいので来ていただいて、そこから滞在型にしていくというようなことで取り組んでおりますので、よろしく願いいたします。

(産業交流部長)

プラン6のきゅうりタウンなんですけど、値崩れの心配はありません。きゅうりに余り栄養がない、水ばかりという話なんですけども、水をとりながらですね、ビタミンCとかそれからカリウムもとることができます。それと何より重要なのは歯触りで、これを出せるのはものすごい貴重です。

それから品種改良については、今回、養液栽培の専門品種で栽培をしております。よりおいしい品種の開発に向けて、まだまだ改良をしていきます。

それと、水産の方の6次化の取組み件数なんですけれども、25年度までにできたものとして、1つがイザリカフェ。26年度にまた1件ありまして、

美波の海の恵み研究会による養殖ワカメの商品開発，試験販売を行っております。27年度におきましては，鞆浦漁協によりますウツボ，トコブシ，剣先イカ等の加工品の開発支援，あとアラメ加工品の開発，以上4つが実績となっております。

（保健福祉環境部長）

プラン19海からのめぐみ関係です。まずひわさ海キラッ大冒険ということで，今年度もイベントを開催します。これに合わせまして，ビーチコーミングも連携して行っていく予定です。

子育ての関係で，認定こども園の数が必ずしも右肩上がりでなくてもいいのではないかというお話をいただきましたが，認定こども園制度というのは，幼稚園と保育所の両方のいいところを備えたものであり，地域に合った形で設置していけることから県としては意味のあるものと考えております。

（経営企画部長）

E委員から介護関係についてご指摘をいただきました。元気なシニアでゆかりのある方々に来てもらうということで，CCRCの事業を進めております。今年度でいいますと美波町と海陽町とで一緒になってシニアの移住・定住を進めていきます。美波町につきましてはアンドモアさんと一緒に，海陽町につきましては関係組織を立ち上げて推進してまいります。

（局長）

阿南市のSOは循環型なので地域との触れあいは難しいかもわかりませんが，SOの方で地域に貢献できないかと事業の提案をしてくれていますので，また一緒にやってみようかと考えています。

それからきゅうりタウンについてなんですが，加工品としてはケーキとババロアとアイスクリームがあります。ホテルリビエラの横のすぎのこ市，あそこでも販売しています。道の駅でも置いています。きゅうりタウンは今結構注目を集めておりまして，組合長さんいらっしゃいますけど，県内の新聞とかテレビはもちろん，最近NHKの全国版でも放送されました。JAバンクのCMに9月から取り上げてくれるということにもなっています。サザエさん，めざましテレビ，笑点とかその辺りでJAバンクのCMできゅうりタウンが半年間流れますので，是非PRをお願いします。

（B委員）

きゅうりタウンの事を色々取り上げていただいて，また県，3町から後押しをしていただいて，協議会を発足させてもらって，ありがとうございます。

きゅうり農家は，海部，海南，穴喰において昭和の55年から60年ぐらいには130軒ぐらいありました。それも段々高齢化等ありまして，今30軒が部会に入っております。大体年間1，200から1，400トンぐらいの収量があり，それを阪神方面，大阪，神戸，大体関西方面に出荷していて，ここ5～6年ぐらいは安定した収量と価格できております。今は土耕栽培が主でして，1本の木で10月の後半に植えまして，その1本の木でロープを伸ばしまして，それが何十メートルも続きます。今年2月にスマートハウス



ということで県の支援もいただきまして、水耕栽培で養液を使っております。ヤシがらに苗を植えて、そこに養液を入れます。これだと土も触らなくてよい、スリッパで農業ができます。海南の役場からちょっと入ったところにございますので、是非また見に来ていただけたらと思います。きゅうりの養液栽培というのはまだ確立はできとらんですけれど、色々種苗会社にそれに適した苗を作っていただきまして、土耕に負けない収量になっています。きゅうり塾については、去年は埼玉から、今年は2期生としまして、埼玉、静岡、大阪から来て、頑張っていたいただいております。いい成績を収められるように、今後ともご協力ください。

(C委員)

お伺いしたいのですが、プラン8のところでは林業機械の導入数というのが挙がっているんですけども、このセットというのは、上がっていく数に応じて従事者も多くなっているのか、それとも終わってから一番最初に買ったところが新しくまた2回目を買うという風になっているのか、そこら辺をちょっとお伺いしたいのと、機械はすごく高価なものなので、もし補助金が無くなるといった場合に、若い人がその負担を担うのかどうか。

いつも思うんですけどプラン25で、新規の林業就業者数が増えていっているんですけども、そのまま増えていってくれたらいいんですが辞める方もおいでるので、その人数も知りたいなと思います。退職する以上に新しくはじめる方が増えていってくれたらいいんですが、なかなか。3年は給料も保障されているんですけど、やめていく方も割と多いんですね。新規就業者数だけをここに挙げてもあまり意味がないかなと。対比がわかれば。

それと先ほどお話しにでたミュージアム。ちょうど国道が崩れてて真ん前を行ったり来たりするんですけども、外見から見たらそんなに広いスペースではないように思いますし、これが赤字にならないように工夫をして欲しいと思います。先ほど道の駅の話が出ましたが、驚敷の道の駅は本当にもうかっているのかというのが正直な所です。やっぱり人が出たり入ったりすることによってお金が落ちると思うので、その辺の所をもう少し考えていかないと赤字を出してしまうとか、厳しいかなと思いました。

それと、林業というのはかなりスパンが長いんです。技術面というところもいる。やはり一番思うのは、切っただけでなくて、全体を見極めることが重要。生産量だけを見るのではなく、伐採後の状態がどういう風になっているのかというのを、よろしく願います。獣害もあるし、水害もあります。土が小さい川に入って、それが全部本流へ行きます。何回もお話させてもらっているんですけど、河口から四ツ足トンネルの辺り、というか県境までの間で、ほとんど河床が上がっています。そういうのもあるので、全体をみて。

あと、若い人は何でもかんでもすぐ答えを出したがるんです。そうじゃなくてももっと考える力を育てて欲しいなと思います。教える方も忍耐がいるんですが、やはり考えさせてあげることが、その人を成長させることになると思うので、高校の林業を学んでいるところに、もうちょっと工夫をして欲しいなとそういう風に思いました。

(F 委員)

評価について A から C ということで、今の基準であれば A が多いというのはまあそうなのかなと。A は 100% 計画どおりということで、B なのかなと思ったところもあります。A で出て行ってしまうと安心してしまうので、厳しいぐらいの評価でもいいのではと思いました。

(部会長)

A というのは当初の予定を上回っているもの。B はそれに足りないけれども、まあ見直しが必要なほどではないもので、C はそのままでは難しいというもの。その辺りについてを、この部会で議論できれば。

(E 委員)

単純に思うんですけど、30年の目標値があるのに、27、28、29の目標値がない。それがあれば誰が見ても評価ができるし、評価委員も要らないのではないのかなと。

(部会長)

おっしゃる通りだと思います。けれどもそれだけではなく、数値にあらわれない部分もあります。あと、併せて評価をする中で、意見も皆さんにいただきます。計画を作るのはこの会議ではありませんが、今後に向けて皆さんと共に議論していければと思います。

いくつか質問をいただきましたが、コンパクトにまとめていただければ。

(産業交流部長)

C 委員からお話のあった新規林業就業者数のカウントについては、おっしゃる通りだと思います。ただ、正しい知識を持った人材を多く育てて、補える力をつくっていくというのが我々の使命かなと考えております。幅広い視野を持った人材を、高校等と連携しながら育ててまいります。

川口ダムの自然エネルギーミュージアムの関係なんですけれども、ミュージアム自体は小さいものですが、あいあいランド等周辺施設と連携しながらバスツアーを開催し、エリア全体でミュージアムと捉え、赤字にならないよう継続的にやっていくという計画でございます。この7月23日にオープンということで、賑わいのある施設になるよう努力してまいります。

(県土整備部長)

道の駅については、もうかる視点を持って、さらなる活用策を考えていきたいと考えております。

(産業交流部長)

先ほど C 委員からご指摘のあった林業機械の補助金なんですけど、新規購入のみで、買い換えについては対象にならないということになっています。国に働きかけていきたいと考えています。

また、補助金制度については継続していく見込みです。

(経営企画部長)

F委員から評価については厳しいぐらいで、というお話をいただきましたが、今日の意見を踏まえ、十分肝に銘じて進めていきます。

(部会長)

色々意見交換をしていただきましたが、評価に関わることを確認したいと思います。

まず2番目ですけれども、これについては。

(D委員)

できるんだったらAでいいです。

(局長)

このAはあくまで27年度のもので、28年度にもしこれだけ進捗せなあかんというところまでできてなかったら、BになったりCになったりします。27年度はAということです。

(部会長)

それでは、変更無しということで。

6番目については。

(B委員)

きゅうりタウンについてはよくできております。

(部会長)

6番目は変更無しとします。

12番目については。4ヶ年ということで、4で割っても足りないところではあります。

(A委員)

ギリギリA。

(部会長)

じゃあこのままということで。

24番については。

(A委員)

目標が低過ぎるんですよ、これ。

(局長)

3月に上方修正してるんですが…

(A委員)

まだ足らん。年寄りも入れなあかん。

(局長)

次の総合会議のときに上方修正案も出していくので、そのときまたこれではまだ低いとか、議論していただきたいと思います。

(A 委員)

ほなしゃあなしでAやな。

(部会長)

話題になったところで、19番は。今度は心配だけでも、今回はこのままということで。

7番は。これについても評価はそのままで。

8番は。これは元がB。評価としてはそのままで。

25番、26番。これもそのままでよろしいでしょうか。

(部会長)

以上、特に評価について変更は無かったかと思います。

したがって、本日、県から提出のありました『平成27年度南部圏域課題解決プラン実施結果及び評価』(案)として示されているものを、そのまま当部会の評価としてよろしいですか。

(各委員)

(異議無し)

(部会長)

ありがとうございます。

それでは、事務局の案をそのまま今回の評価とすることとしたいと思います。

南部総合県民局には、委員の皆さんからいただきましたご意見やご提言を、先日策定された『徳島県南部圏域振興計画』をはじめ、南部総合県民局の施策、事業にできる限り反映していただくようお願いします。

本日は、委員の皆さんには、幅広いご意見やご提言をいただきありがとうございました。

なお、最後に当部会の会議録に関しまして、お諮りしたいことがございますので事務局から説明を願います。

(事務局)

事務局より説明させていただきます。本計画推進評価部会の会議録の公表内容につきましては、部会長と協議の上、後日、公表させていただきたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

(部会長)

以上、事務局から説明がありました。本日の会議録の公表内容については、部会長である私の判断により公表することとしてよろしいでしょうか。

(各委員)

(異議無し)

(事務局)

ありがとうございました。

以上をもちまして徳島県南部地域政策総合会議計画推進評価部会を閉会させていただきます。

本日は、大変ありがとうございました。